

令和6年度

研究部門教育科目シラバス

農業研究科

畜産研究科

2年生

鹿児島県立農業大学校

授業科目	農業経営各論			講師名	農大農業研究科教授，非常勤教授 農大畜産研究科教授，非常勤教授		
履修学科	農業研究科 畜産研究科	履修年次	2年	履修時間	30時限	単 位	2単位
授業形態	講義・演習方式						
テーマ及び 達成目標	<p>・各種農業経営手法の実態，特徴，考え方について習得し，さらに，各種経営事例研究することで理解を進める。</p> <p><農業経営計画論，農業経営各論，経営計画演習は関連させて実施する。></p>						
使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献	<p>・講義内容に応じて各種プリント，演習教材を準備する。</p> <p>・電卓，パソコン</p> <p>・その他（学生のレベルに応じて必要なテキスト及び資料等）</p>						
授 業 スケジュール	<p>1～8時限 農業経営の実態と各論 見かけの所得と実際の所得 市場出荷，直販，契約栽培 天候のリスク グループ販売と直販 地域との関わり 農地の確保 品目選定，技術習得，補助金 有機農業，観光農園，6次産業化 AI，IoT，ロボット</p> <p>9～23時限 各種経営事例研究 家族経営，企業的経営 単一品目経営，複合経営 少量多品目経営，多量単一品目経営 輸出 農福連携 農業ビジネス</p> <p>24～30時限 レポートまとめ</p>						
成績評価	<p>農業技術論レポート・態度（50点）</p> <p>農業技術各論レポート・態度（50点）</p> <p style="text-align: right;">計100点</p> <p>優：80以上～100，良：70以上～80未満，可：60以上～70未満，不可：60未満</p>						

授業科目	農業税務論			講師名	木山 雅人（税理士） （税理士法人桜岳 所長） 農大農業研究科教授，非常勤教授 農大畜産研究科教授，非常勤教授		
履修学科	農業研究科 畜産研究科	履修年次	2年	履修時間	30時限	単 位	2単位
授業形態	講義・演習方式						
テーマ及び達成目標	農業を営むのに必要な税金の種類と税務申告に必要な知識について学ぶ。						
使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献	「私たちの税金」（財団法人 大蔵財務協会編） 講義内容に応じて各種プリント，演習教材を準備する。 ・パソコンプロジェクター使用						
授 業 スケジュール	<p>1～8時限 ①法とは何か。②法と道德の関係 ③法源 憲法原理 （木山） ④法の分類－日本の法体系 ⑤制定法の上下関係 ⑥裁判所機構図 ⑦法解釈の方法 ⑧税金はなぜ必要か。 ⑨日本の税の歴史 ⑩租税法律主義と租税公平主義</p> <p>9～27時限 1 所得税 （木山） 2 法人税 3 所得計算（事業所得にかかる所得税・法人税共通） 4 農業法人標準勘定科目 5 所得計算 6 農業法人標準勘定科目 I 相続税 II 贈与税 III 相続時精算課税制度 IV 地価税 V 消費税 VI その他間接税 VII 修正申告・更正の請求 VIII 税務署のしごと</p> <p>28～30時限 レポートまとめ</p>						
成績評価	レポート等 100点 優：80以上～100，良：70以上～80未満，可：60以上～70未満，不可：60未満						

授業科目	農業法人実務Ⅱ			講師名	秋山 邦裕 (鹿児島大学名誉教授) 農大農業研究科教授, 非常勤教授 農大畜産研究科教授, 非常勤教授		
履修学科	農業研究科 畜産研究科	履修年次	2年	履修時間	30時限	単 位	2単位
授業形態	講義方式&演習						
テーマ及び 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・農家・家族農業経営から農業法人経営への転換プロセスを実体的に学ぶ。 ・農業法人経営の企業形態別の特徴についてケーススタディをもとに学び, 形態選択の比較のポイントを理解する。 ・法人の経営管理について, 項目毎にポイントを実態的に把握する。 						
使用教材 ①テキスト・教材	講義のパワーポイントの一部と関連PDF資料を印刷配布						
授 業 スケジュール	第1～26時限 (秋山名誉教授) 1 家族経営(世帯・自然人)から法人経営への転換 2 企業形態の洗濯と組合せ: 法人経営のケース・スタディ 3 農業法人経営の管理手法: マネジメントの基本 4 農業・農村ビジネスの展望: 新たな(空間)価値創造 27～30時限 ・講義レポートまとめ						
成績評価	意見発表(30点), 出席状況(30点), 学習態度・発表(40点) 優: 80以上～100, 良: 70以上～80未満, 可: 60以上～70未満, 不可: 60未満						

授 業 科 目	マーケティングⅡ			講師名	豊 智行 (鹿大学農学部教授) 農大農業研究科教授, 非常勤教授 農大畜産研究科教授, 非常勤教授		
履 修 学 科	農業研究科 畜産研究科	履修年次	2年	履修時間	30 時限	単 位	2 単位
授 業 形 態	講義・演習方式, 現地研修						
テーマ及び 達成目標	<p>農産物の生産から販売に至るまでの戦略の立て方について学習する。 流通現場において, 各種販売形態を調査することにより, それぞれの実状を把握する。</p> <p><農村調査論, 農村調査演習, 地域農業振興論, 地域農業調査研究, マーケティング, 農村地域活動実習は関連させて実施する。></p>						
使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献	<p>講義演習内容に応じて各種プリント, 演習教材を準備する。 現地研修先資料 (事前情報収集資料含む) <地域農業・農村振興方策づくり関連科目共通テキスト></p>						
授 業 スケジュール	<p>第1～12時限 講義 (豊教授)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本における食料需給, など ・食料需給表 (概算値) ・食用農林水産物の生産から飲食料の最終消費に至る流れ, など ・流通の成り立ち ・有利販売の理論的背景と方法 <p>第13～30時限 現地調査 特徴的な流通販売企業, 団体及び農業法人等の先進事例等の調査研修 (マーケティングの視点で売れるものづくり等の調査)</p> <p>講義レポートまとめ</p>						
成 績 評 価	<p>講義: レポート等 (100点) レポート (80点), 態度 (20点) 講義, 現地研修評価の平均で評価する。 優: 80 以上～100, 良: 70 以上～80 未満, 可: 60 以上～70 未満, 不可: 60 未満</p>						

授業科目	農業経営計画論Ⅱ			講師名	農業専門普及指導員 農大農業研究科教授，非常勤教授 農大畜産研究科教授，非常勤教授		
履修学科	農業研究科 畜産研究科	履修年次	2年	履修時間	30時限	単 位	2単位
授業形態	講義・演習方式						
テーマ及び 達成目標	<p>農業経営管理に必要な農業経営診断分析，経営管理のポイントを理解する。また，目標とする経営モデルを作成するための考え方，情報収集，事例研究をおこなう。</p> <p><農業経営計画論Ⅱ，農業経営各論及び経営計画演習は関連させて実施。></p>						
使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容に応じて各種プリント，演習教材を準備する。 ・電卓，パソコン ・その他（学生のレベルに応じて必要なテキスト及び資料等） 						
授 業 スケジュール	<p>1～4時限 農業経営診断分析</p> <p>5～8時限 経営管理のポイント</p> <p>9～12時限 線形計画法</p> <p>13～15時限 演習，レポートまとめ</p> <p>16～19時限 目標とする経営モデルを作成するための考え方 農業をやる目的 自分が望む生活スタイル 作物・作型（育て方，こだわり） 経営プランの必要性 資金調達の方法 経営計画（作成）に向けた情報収集</p> <p>20～30時限 経営計画作成事例研究，レポートまとめ</p>						
成績評価	<p>各講師のレポート，筆記試験，態度等による評価 専門普及指導員（50点），職員（50点） 優：80以上～100，良：70以上～80未満，可：60以上～70未満，不可：60未満</p>						

授業科目	農業法規			講師名	(農政課技術補佐) (農村振興課農地利用推進係) (農業経済課主幹兼金融係) (経営技術課経営体育成係)		
履修学科	農業研究科 畜産研究科	履修年次	2年	履修時間	15時限	単 位	1単位
授業形態	講義・演習方式						
テーマ及び 達成目標	農業者・農村リーダーの資質として必要な農業関係法令等を学ばせる。						
使用教材 ①テキスト・教材	講義内容に応じて各種プリント，演習教材を準備する。						
授 業 スケジュール	<p>1～4時限 <農政課技術補佐> ・ 県(国)の農業・農村施策等と農業関係法規について (農業関係法令作成資料，国施策～食料・農業・農村基本法，基本計画など) (県施策：かごしまの食の農の県民条例に基づく基本方針，主要施策の概要等)</p> <p>5～8時限 <農業経済課金融係長> ・ 農業制度資金の概要及びその活用と留意点</p> <p>9～15時限 <農村振興課農地利用推進係長> <経営技術課経営体育成係> ・ 農業経営基盤強化促進法の概要(目的，用語，基本構想等) ・ 農業経営基盤強化促進法の関連法(農地法・農振法)の概要 (目的，用語，権利移動・貸借・農地転用，農振地域・計画変更(除外)等) ・ 農業経営基盤強化促進法に基づく制度について(演習含む) (認定農業者制度，支援措置等，経営改善計画，農地利用集積計画)</p>						
成績評価	各講師のレポート，試験，態度等による評価(100点)の平均で評価する。 優：80以上～100，良：70以上～80未満，可：60以上～70未満，不可：60未満						

授業科目	地域農業振興論			講師名	坂井 教郎（鹿大学農学部准教授） 農大農業研究科教授，非常勤教授 農大畜産研究科教授，非常勤教授		
履修学科	農業研究科 畜産研究科	履修年次	2年	履修時間	30時限	単 位	2単位
授業形態	講義・演習方式，現地事例研修						
テーマ及び 達成目標	<p>地域農業の現状・動向を理解し，6次産業化の視点から地域農業振興を理解する。</p> <p>現地研修は6次産業化の実際の現地事例調査，講義は6次産業化をテーマに地域農業の現状・動向を理解する。</p> <p><農村調査論，農村調査演習，地域農業振興論，地域農業調査研究，マーケティングⅡ，農村地域活動実習は関連させて実施する。></p>						
使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献	<p>講義演習内容に応じて各種プリント，演習教材を準備する。</p> <p>現地事例研修先資料（事前情報収集資料含む）</p> <p><地域農業・農村振興方策づくり関連科目共通テキスト></p>						
授 業 スケジュール	<p>第1～12時限（坂井准教授）</p> <p>イントロダクション</p> <p>農産物・食料の需要と供給</p> <p>需要・供給の法則と農産物価格の性格</p> <p>経済多角化と六次産業化</p> <p>六次産業化の歴史</p> <p>甕島における六次産業化の取り組み</p> <p>そばによる六次産業化の取り組み1，2</p> <p>第13～30時限</p> <p>現地事例研修</p> <p>県内の6次産業化等の取り組み事例調査</p> <p>現地調査レポートまとめ</p>						
成績評価	<p>講義：レポート等（100点）</p> <p>レポート（80点），態度（20点）</p> <p>講義，現地研修評価の平均で評価する。 合計100点</p> <p>優：80以上～100，良：70以上～80未満，可：60以上～70未満，不可：60未満</p>						

授 業 科 目	農業・農村リーダー論			講師名	農大副校長 農大農業研究科教授, 非常勤教授 農大畜産研究科教授, 非常勤教授		
履 修 学 科	農業研究科 畜産研究科	履修年次	2年	履修時間	15時限	単 位	1単位
授 業 形 態	講義・演習方式						
テーマ及び達成目標	農業・農村の振興を担うリーダーとして必要な知識や手法を学ぶ。						
使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献	「青年農業者育成マニュアル」等 講義内容に応じて各種プリント, 演習教材を準備する。						
授 業 スケジュール	<p>1～4時限 ・青年農業者育成の方向 ・青年農業者育成の基本的考え方 ・4Hクラブの理念</p> <p>5～8時限 ・クラブ活動の進め方 ・プロジェクト活動の進め方 ・指導農業者による育成 ・青年農業者活動事例</p> <p>9～12時限 講話：テーマ：農業・農村のリーダーとして求められるもの等 リーダーの資質等について</p> <p>13～15時限 ・演習・レポートまとめ</p>						
成 績 評 価	講義：各授業態度, レポート等 100点 優：80以上～100, 良：70以上～80未満, 可：60以上～70未満, 不可：60未満						

授 業 科 目	教育概論			講師名	植村 秀人 (南九州大学 准教授) 農大農業研究科教授, 非常勤教授 農大畜産研究科教授, 非常勤教授		
履 修 学 科	農業研究科 畜産研究科	履修年次	2年	履修時間	15 時限	単 位	1 単位
授 業 形 態	講義・演習方式						
テーマ及び達成目標	農業・農村に関する教育指導を行うに必要な知識や手法を学ばせる。						
使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献	講義内容に応じて各種プリント, 演習教材等						
授 業 スケジュール	<p>第1時限目 はじめに～農業・農村と教育～ 本科目の意義、農業・農村と教育の関りを理解する。</p> <p>第2～3時限目 社会変化と農業・農村 教育の重要性が高まっていること理解し、農業・農村の視点から考察する。</p> <p>第4～5時限目 生涯学習と農業・農村①～地域における学習～ 生涯学習概念を理解し、地域における教育活動のあり方を考察する。</p> <p>第6～7時限目 生涯学習と農業・農村②～地域発展と学習～ 域発展と教育の関係を理解し、どのような学習が必要かを考察する。</p> <p>第8～9時限目 学校教育と農業・農村 農業・農村の発展と学校教育との関係を理解する。</p> <p>第10時限目 教育計画と農業・農村～教育活動の計画を考える～ 農業・農村における教育活動の実際を知り、教育活動の計画を考える。</p> <p>第11時限目 おわりに～農業・農村のリーダーとして～ 学習をまとめ、農業・農村のリーダーとして必要な教育に関する知識・手法を確認する。</p> <p>第12～15時限 レポートまとめ</p>						
成 績 評 価	<p>講義：授業態度, レポート等 100点</p> <p>優：80以上～100, 良：70以上～80未満, 可：60以上～70未満, 不可：60未満</p>						

授 業 科 目	最新農業技術論			講師名	農大農業研究科教授, 非常勤教授 農大畜産研究科教授, 非常勤教授		
履 修 学 科	農業研究科 畜産研究科	履修年次	2年	履修時間	15時限	単 位	1単位
授 業 形 態	講義・演習方式						
テーマ及び 達成目標	農業の生産性を飛躍的に高めるAI, ICT, ドローン等, 発展著しい先端技術の実例を学び, 中長期的視点で基礎的・先導的な最新農業技術の現場への応用・実践ができる資質・能力を高める。						
使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容に応じて各種プリント, 演習教材を準備する。 ・インターネットを活用する。 						
授 業 スケジュール	1～7時限 農業開発総合センター試験研究成果発表会に参加し, AI, ICT, ドローン等, 最新農業技術の農業利用の可能性について考察を深める。 8～10時限 農業分野での実例紹介等 11～13時限 畜産分野での実例紹介等 11～13時限 レポート作成指導						
成 績 評 価	講義：授業態度, レポート等 100点 優：80以上～100, 良：70以上～80未満, 可：60以上～70未満, 不可：60未満						

授 業 科 目	農村調査論			講師名	農大農業研究科教授, 非常勤教授 農大畜産研究科教授, 非常勤教授		
履 修 学 科	農業研究科 畜産研究科	履修年次	2年	履修時間	15時限	単 位	1単位
授 業 形 態	講義・演習方式, 現地調査						
テーマ及び 達成目標	農業・農村の実態及び活性化事例等の現地調査を実施し, 報告書としてとりまとめ発表することで, 地域農業・農村振興の方策づくりの手法等を習得する。 <農村調査演習, 地域農業振興論, 地域農業調査研究, マーケティング, 農村地域活動実習は関連させて実施する。>						
使用教材 ①テキスト・教材	講義演習内容に応じて各種プリント, 演習教材を準備する。 現地研修先資料 (事前情報収集資料含む) <地域農業・農村振興方策づくり関連科目共通テキスト>						
授 業 スケジュール	<p>1～8時限 農村調査対象について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域農業支援組織 農業公社や農作業受委託組織など地域農業を支援, 補完する組織の活動 ・むらづくり活動 特産作目振興, グリーン・ツーリズム・消費者との交流 (地産地消, 直売所, 観光農園, 農家民宿) など。 ・マーケティング, 6次産業化の取り組み ・そのほか スマート農業, 農産物の安心安全, 農業後継者組織, 農村女性組織の活動, 農福連携 等 <p>9～15時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査チーム編成とリーダー, チーム員の役割分担 ・調査計画書, 調査方法, 報告書作成の手順 ・過去農村調査事例研究 ・調査先の情報収集 ・レポートまとめ 						
成 績 評 価	<農村調査論> 態度 (20点), レポート (80点) 合計100点 優: 80以上～100, 良: 70以上～80 未満, 可: 60以上～70 未満, 不可: 60 未満						

授 業 科 目	農村調査演習			講師名	農大農業研究科教授, 非常勤教授 農大畜産研究科教授, 非常勤教授		
履 修 学 科	農業研究科 畜産研究科	履修年次	2年	履修時間	15 時限	単 位	1 単位
授 業 形 態	演習方式						
テーマ及び 達成目標	<p>農村調査演習は, 調査チーム編成と役割分担, 地域課題の中から, 調査研究すべき課題を設定し, 情報収集により調査項目の検討と調査様式などの現地調査計画書を作成する。</p> <p><農村調査論, 地域農業振興論, 地域農業調査研究, マーケティング, 農村地域活動実習は関連させて実施する。></p>						
使用教材 ①テキスト・教材	<p>講義演習内容に応じて各種プリント, 演習教材を準備する。</p> <p>現地研修先資料 (事前情報収集資料含む)</p> <p><地域農業・農村振興方策づくり関連科目共通テキスト></p>						
授 業 スケジュール	<p>1～8 時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査チーム編成とリーダー, チーム員の役割分担の決定 ・調査方法の検討 <p>9～15 時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査先の情報収集 ・調査項目の検討と調査様式の作成 ・現地調査計画書の作成 						
成 績 評 価	<p><農村調査演習></p> <p>態度 (20点), 現地調査計画書 (80点) 100点</p> <p>優: 80 以上～ 100, 良: 70 以上～ 80 未満, 可: 60 以上～ 70 未満, 不可: 60 未満</p>						

授業科目	農村地域活動実習			講師名	吉田 要 ((一社)九州アグリビジネス協会 代表理事) 農大農業研究科教授, 非常勤教授 農大畜産研究科教授, 非常勤教授		
履修学科	農業研究科 畜産研究科	履修年次	2年	履修時間	45時限	単位	1単位
授業形態	講義・演習方式						
テーマ及び達成目標	<p>6次産業化事業成功の鍵となる「ストーリーづくり」や「消費者目線・顧客目線」について, 実践事例の講義を行う。</p> <p>百貨店や流通小売店等実需者のニーズ把握や学生間のグループ討論を通して, マーケティング, 6次産業化の視点から農村地域活動を学び, 将来の農業経営やリーダーとしての資質向上をおこなう。</p> <p><農村調査論, 農村調査演習, 地域農業振興論, 地域農業調査研究, マーケティングⅡは関連させて実施する。></p>						
使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献	<p>「ストーリーづくり講座」, 「消費者目線・顧客目線」の講師作成資料</p> <p>「農業のマーケティング教科書」岩崎邦彦</p>						
授業スケジュール	<p>第1～15時限 (1) 6次産業化のストーリーづくり (吉田) (2) 農産物に対する消費者目線と顧客目線</p> <p>第16～24時限 百貨店や流通小売店等実需者のニーズ把握 報告書作成</p> <p>第25～30時限 課題解決のためのグループ討論 討論結果の総括</p> <p>第31～45時限 全体総括とレポートまとめ</p>						
成績評価	<p>講義: レポート等 (100点) レポート (80点), 態度 (20点)</p> <p>講義, 現地研修評価の平均で評価する。 合計100点</p> <p>優: 80以上～100, 良: 70以上～80未満, 可: 60以上～70未満, 不可: 60未満</p>						

授 業 科 目	地域農業調査研究			講師名	農大農業研究科教授, 非常勤教授 農大畜産研究科教授, 非常勤教授		
履 修 学 科	農業研究科 畜産研究科	履修年次	2年	履修時間	60 時限	単 位	4 単位
授 業 形 態	演習, 現地調査						
テーマ及び 達成目標	<p>・農業・農村の実態及び活性化事例等の現地調査を実施し報告書としてとりまとめ発表することで, 地域農業・農村振興の方策づくりの手法等を習得する。</p> <p>地域農業調査研究は, 農村調査論, 農村調査演習で作成した調査計画書に基づき現地調査を実施し報告書としてとりまとめ発表する。</p> <p><農村調査論, 農村調査演習, 地域農業振興論, マーケティング, 農村地域活動実習は関連させて実施する。></p>						
使用教材 ①テキスト・教材	<p>講義演習内容に応じて各種プリント, 演習教材を準備する。</p> <p>現地研修先資料 (事前情報収集資料含む)</p> <p><地域農業・農村振興方策づくり関連科目共通テキスト></p>						
授 業 スケジュール	<p>1 ~ 15 時限 ・ 現地調査の実施・研究</p> <p>16 ~ 56 時限 ・ 調査報告書のとりまとめ (報告書, PWP 発表資料作成)</p> <p>57 ~ 60 時限 ・ 報告 (発表) 会</p>						
成 績 評 価	<p>現地調査態度 (10点) 報告書 (50点) 及び報告会 (40点) の内容でチームごとに評価する。 計100点 評価項目は以下の通り。</p> <p>優 : 80 以上 ~ 100, 良 : 70 以上 ~ 80 未満, 可 : 60 以上 ~ 70 未満, 不可 : 60 未満</p>						

授業科目	経営計画演習			講師名	農大農業研究科教授, 非常勤教授 農大畜産研究科教授, 非常勤教授		
履修学科	農業研究科 畜産研究科	履修年次	2年	履修時間	75 時限	単 位	5 単位
授業形態	演習方式						
テーマ及び 達成目標	<p>自家経営や農大養成部門の経営プロジェクト等の実績をもとに, 1年次講義, 派遣研修実績を踏まえて, 概ね就農10年後を目標とする経営モデルを作成し, 経営計画作成手法を理解する。</p> <p>< 農業経営計画論, 農業経営各論は関連させて実施する。 ></p>						
使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・演習内容に応じて, 各種プリント, 教材を準備する。 ・書籍: 「絶対にギブアップしたくない人のための成功する農業」 ・農大養成部門の経営プロジェクト実績集 ・その他 (学生のレベルに応じて必要なテキスト及び資料等) 						
授 業 スケジュール	<p>1～4 時限 演習の進め方</p> <p>5～20 時限 経営モデル (1年次作成) の見直し</p> <p>21～24 時限 経営目標・技術目標の設定</p> <p>25～40 時限 投資計画及び生産計画の作成</p> <p>41～50 時限 経営収支計画の作成</p> <p>51～60 時限 資金繰り計画の作成</p> <p>61～75 時限 就農計画の作成</p>						
成績評価	<p>演習態度 (20点) 及び演習レポート (80点) で評価する。</p> <p>演習レポートの評価項目は以下の通りとし, 提出期限を過ぎた場合は減点する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に整合性はあるか 30点 (10・15・20・25・30 の5段階評価) ・具体的な計画になっているか 30点 (10・15・20・25・30 の5段階評価) ・計画の実現性は高いか 20点 (4・8・12・16・20 の5段階評価) <p>優: 80以上～100, 良: 70以上～80 未満, 可: 60以上～70 未満, 不可: 60 未満</p>						

授 業 科 目	専攻ゼミ (派遣研修)			講師名	派遣先 (試験研究機関等) 農大農業研究科教授, 非常勤教授 農大畜産研究科教授, 非常勤教授		
履 修 学 科	農業研究科 畜産研究科	履修年次	2年	履修時間	405 時限	単 位	9単位
授 業 形 態	講義・実習・ゼミ方式						
テーマ及び 達成目標	1年次からの継続研修として実施する。派遣研修全体計画では、試験研究機関等の派遣先の研修を主とし、関連する産地・農家先進事例調査、流通調査等を合わせて実施する。成果については、研究論文は「研究論文カリキュラム」の中で卒業論文としてまとめる。派遣研修全体については、派遣研修報告書としてまとめる。						
使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献	「派遣研修報告書作成要領」 「派遣研修報告会実施計画案」 「研究論文作成要領」 「講義内容に応じて各種プリント、演習教材を準備する。」						
授 業 スケジュール	第1～405 時限 派遣研修の実施 (1) 試験場等研究機関, 農業関連機関, 農業法人 (2) 産地・農家先進事例調査 (3) 流通調査 (市場流通研修) (4) その他						
成 績 評 価	派遣研修評価書70点 派遣研修報告書・派遣研修報告会30点 合計100点×80%=専攻ゼミ評価80点 優: 80以上～100, 良: 70以上～80未満, 可: 60以上～70未満, 不可: 60未満						

授 業 科 目	専攻ゼミ (指導実習)			講師名	養成部門 1年担当教授等 農大農業研究科教授, 非常勤教授 農大畜産研究科教授, 非常勤教授		
履 修 学 科	農業研究科 畜産研究科	履修年次	2年	履修時間	90時限	単 位	2単位
授 業 形 態	演習・実習方式						
テーマ及び 達成目標	<p>「派遣研修」で培った知識・技術を養成部門の学生に対し指導実践する。</p> <p>事前演習として、養成部門学生との交流を深め相互の技術交換する機会を設ける。指導実践については実技指導・講義指導を行い、その過程で指導方法を実践的に学ぶ。実習結果(成果)について、指導のあり方をゼミ形式で報告研究する。</p>						
使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献	<p>「指導実習 (専攻ゼミ) の進め方」「指導実習 (専攻ゼミ) マニュアル」 普及指導・普及方法等マニュアル, 青少年指導マニュアル等参照 必要に応じて各種プリント, 演習教材, プロジェクターを準備する。</p>						
授 業 スケジュール	<p>事前オリエンテーション</p> <p>第1～15時限 指導実習実施方法の検討, 全体実施計画案の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前演習, 指導実習の進め方について ・養成部門との計画調整 (対象品目の選定, 事前演習の作成) ・指導実習全体実施計画案の作成 <p>第16～38時限 専門部門別事前演習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前演習計画に基づく演習 <p>第39～45時限 事前演習結果のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前演習経過の整理および成果のまとめ ・指導実践 (実技・講義) のための課題整理 <p>第46～53時限 指導実施案の作成 (作成要領, 指導案の作成)</p> <p>第54～75時限 部門別指導実習の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案に基づく実践 (実技指導実習, 講義指導実習) <p>第76～87時限 指導実習報告書の作成</p> <p>第88～90時限 指導実習(結果)研究ゼミ (評価検討)</p>						
成 績 評 価	<p>事前演習30点 指導実習40点 指導実習報告書・研究ゼミ30点</p> <p>優: 80以上～100, 良: 70以上～80未満, 可: 60以上～70未満, 不可: 60未満</p>						

授業科目	研究論文（卒業論文）			講師名	農大農業研究科教授，非常勤教授 農大畜産研究科教授，非常勤教授		
履修学科	農業研究科 畜産研究科	履修年次	2年	履修時間	180時限	単位	6単位
授業形態	講義・演習方式						
テーマ及び 達成目標	派遣研修等における研究成果を研究論文としてまとめ，就農後の栽培管理，飼養管理技術等に活用する。派遣研修先と連携しながら，研究生が主体的に研究論文を作成することを目標とする。						
使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献	「研究論文作成要領」 講義内容に応じて各種教材を準備する。 他過去の研究論文，試験研究機関論文等の事例						
授業 スケジュール	<p>第1～2時限 論文作成の要領</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに基づく論文作成フローを解説する（予備：1年次にも逐次行っておく） <p>第3～4時限 論文の書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> 論文の書き方について事例を含めた解説，文献収集活用方法 <p>第5～135時限 論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 派遣研修における「研究計画」の成果を「研究論文」として体系化してまとめる。 論文作成に対する情報提供及び指導助言 <p>第136～150時限 研究論文発表会資料作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例紹介。論文に基づき，プレゼンテーションソフト「パワーポイント」で発表資料を作成する。 <p>第151～165時限 研究論文発表会（11月中旬）</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究論文発表会リハーサル，発表会 <p>第166～180時限 研究論文製本用（1月中旬）</p>						
成績評価	<p>研究論文内容等の審査（内容・理解度・知識）</p> <p>研究論文発表会の審査（発表内容・表現方法・質疑対応・時間）</p> <p>評価点（研究論文：70点，発表会：30点）</p> <p>優：80以上～100，良：70以上～80未満，可：60以上～70未満，不可：60未満</p>						